

運命に、立ち向かえ。

2002 トロント国際映画祭 観客賞受賞  
2003 サンダンス映画祭 観客賞受賞  
2003 ロッテルダム映画祭 観客賞受賞

# クジラの島の少女

ニュージーランド、マオリの神話。一人の少女の無垢な魂が、奇跡を呼び起こす。

サウス・パシフィック・ピクチャーズ、アガロメティア、バンドラフィルム、ニュージーランド映画製作基金、ニュージーランドフィルム・コミッション、NZ・オン・エア共同提供/フィルム・シネマフィルム・ソルトライン・ウェストファレシ社 Gabbli 後援 "Whale Rider" ケイシー・キャスル・ヒューズ、ラウリ・バラテン、ウィッキー・ノートン、クリフ・カーティス/キャスティング:ダイアナ・ローラン/プロダクション:デサン・グラント・メイジャー/撮影監督:レオン・ナービー/衣装:カースティ・キアモロ/編集:デヴィッド・ロウルソン/音楽:リサ・ジェフ・アソシエイテッド・プロデューサー:ウィティ・イヒマエラ/共同製作:レイン・ハード・ブランド  
製作総指揮:ビル・キャヴェン、リンダ・ゴルドスタイン・ソールトン/原作:「サ・ホエル・ライター」(ウィティ・イヒマエラ著) 製作:ケム・サンダース、ジョン・バーネット、フランク・ヒューブナー  
脚本・監督:ニキ・カーロ/原作:角川書店刊/協力:ニュージーランド観光局/提供:日本ヘラルド映画、テレビ東京/配給:日本ヘラルド映画 www.herald-arthouse.com



# クジラの島の少女



2002 トロント国際映画祭 観客賞受賞  
 2003 サンダンス映画祭 観客賞受賞  
 2003 ロッテルダム映画祭 観客賞受賞

監督・脚本：ニキ・カーロ 出演：ケイシャ・キャッスル=ヒューズ、ラウリ・バラテン、ウィッキー・ホードン、クリフ・カーティス  
 原作：『ザ・ホエル・ライダー』（ウィティ・イヒマエラ著） 2003年/ニュージーランド映画/カラー作品/スコープ・サイズ/Dolby digital  
 原題：Whale Rider/1時間42分/字幕翻訳：太田直子/原作本：角川書店刊/協力：ニュージーランド観光局  
 提供：日本ヘラルド映画、テレビ東京/配給：日本ヘラルド映画/宣伝：日本ヘラルド映画 アートハウス・チーム、クレストインターナショナル

**世界中の映画祭で〈観客賞〉を独占した  
 奇跡のニュージーランド映画が、この夏いよいよやってくる！**

果てしなく広がる青い海と空、豊かな大自然を誇る楽園の島ニュージーランド。大ヒット映画『ロード・オブ・ザ・リング』の舞台にもなったこの島が、今また奇跡の作品を生んだ。本国では並み居るハリウッド大作を押しつけ異例の6週間第1位。そしてトロント、サンダンス、ロッテルダム映画祭と、まさに世界中の絶賛を受けて見事“観客賞”をトリプル受賞。観る者に強い感動を与えずにおかない、1人の少女とクジラをめぐる愛と勇気の物語が、いよいよ日本に上陸する。この夏、ニュージーランド版『風の谷のナウシカ』とも言える感動作、『クジラの島の少女』旋風が巻き起こることは間違いない！

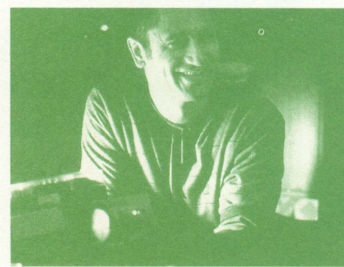
**数奇な星のもとに生まれた少女パイケアが、  
 自らの手で運命を切り開く！**

「祖先はクジラにのってやってきた」という神秘的な勇者伝説を信じるマオリの一家。代々、男を族長とする一家の長男は双子の男女を授かるが、産後すぐに母親と男の子は亡くなってしまふ。悲しみに父親は家を去り、ひとり女の子が残された。祖父はパイケアを大切に育てながらも「これが男の子だったら」と、孫娘の存在を素直に受け入れられなくなる。離れ離れになっていく家族の絆。12歳を迎えたパイケアは、自分が女であるという運命を大好きな祖父に認めてもらおうとするが、その想いは届かない…。ある日、彼女を待ち受ける悲しい運命に呼応するかのように何頭ものクジラたちが浜辺に打ち上げられた。一族の終末の暗示では、と恐れる島の人々は海へ還そうとするが、クジラはびくともしない。そのとき、パイケアは静かに一頭のクジラに近づいていく。伝説の勇者“ホエル・ライダー”の魂を受け継ぐものとして、ニュージーランドの海と大地に彼女が起こす奇跡とは――

**「小さな勇気が世界を変え、  
 女の子でもヒーローになれる」という原作からのメッセージ**

原作は主人公と同じマオリ出身の作家、ウィティ・イヒマエラ。パイケアをとりまく登場人物を暖かく、時にはユーモアを交えて描きながら、いまだに男性社会にあるマオリの、いや、世界の因習に疑問を投げかける。これを21世紀にふさわしい作品として見事映画化したのはニュージーランドの女性監督、ニキ・カーロ。彼女のもとに『ロード・オブ・ザ・リング』や『グラディエーター』など、アカデミー賞、ゴールデン・グローブ賞を受賞した最高峰のスタッフが結集し、破格の1千万NZドルという制作費が投入された。キャストは全てマオリ出身で、中でも主人公パイケアを演じた美少女ケイシャ・キャッスル=ヒューズは1万人の中から選ばれた天才少女。また『ブローク』『トレーニング・デイ』といった数々のハリウッド大作にも出演する俳優、クリフ・カーティスが父親役で作品に深みを与えている。

この映画を見て感激の涙を流さずにはいられないだろう。  
 プルック・オリーブジャー (PULP MAGAZINE)



www.herald-arthouse.com

今夏、奇跡のロードショー

(空中庭園展望台) 梅田スカイビルタワーイースト4F  
**梅田ガーデンシネマ**  
 phone:06-6440-5977  
 http://www.cineplex.co.jp